

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2018年												2019年														
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月 ~6日	10月 ~13日	10月 ~20日	10月 ~27日	11月 ~3日	11月 ~10日
カンピロバクター	37	39	48	105	75	71	122	98	160	113	109	109	56	46	78	65	87	128	102	107	157	23	21	6	12	7 (14)	11
病原性大腸菌	66	51	44	98	78	83	111	80	73	69	119	157	85	81	77	69	51	59	51	37	85	11	14	8	13	9 (13)	7
腸管出血性大腸菌	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	1	1	0	0
サルモネラ	3	1	1	5	3	20	12	22	13	9	5	13	5	3	11	6	3	11	5	12	18	2	2	1	4	2 (4)	3
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	11	7	24	10	10	16	26	20	17	22	19	10	9	12	13	14	24	11	17	15	3	3	0	2	2	2
黄色ブドウ球菌 MRSA	12	11	13	12	12	17	14	11	18	7	18	22	22	16	22	14	11	12	18	12	15	2	4	2	2	2 (4)	2
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
その他	0	7	5	3	1	2	4	2	2	1	3	3	0	0	1	0	0	3	1	2	4	0	1	0	0	0	0
ロタウイルス	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	9	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	3	2	1	0	1	0	0	0	0	0
ノロウイルス	13	13	17	4	4	2	3	0	0	0	6	23	23	23	11	11	2	5	0	1	1	0	0	0	0	0	1

\* ( )は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和元年第45週(11月4日~11月10日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	6	結核	6	1		1	1		1	2	
三類	0	発生なし	0								
四類	11	つつが虫病	3	1	1			1			
		日本紅斑熱	2		1					1	
		日本脳炎	1		1						
		レジオネラ症	5			2		2	1		
五類全数	7	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1			
		水痘(入院例)	1		1						
		梅毒	2				1	1			
		百日咳	2		1			1			
		風しん	1		1						

注) 西部…大竹市, 廿日市市, 府中町, 海田町, 熊野町, 坂町, 安芸高田市, 安芸太田町, 北広島町, 江田島市 西部東…竹原市, 東広島市, 大崎上島町  
東部…三原市, 尾道市, 世羅町, 府中市, 神石高原町 北部…三次市, 庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

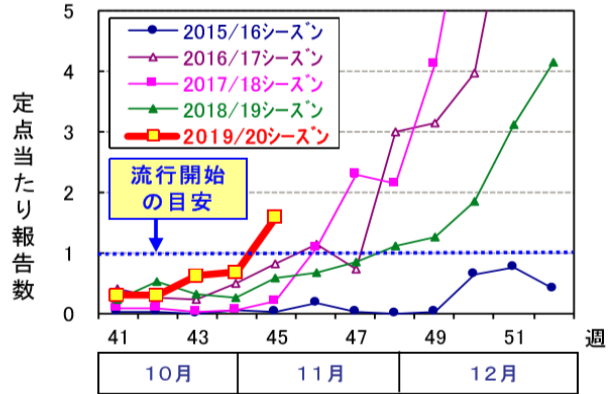
1. インフルエンザ

59人(定点当たり1.59人、迅速診断キット:A型陽性58人、B型陽性1人)の報告があり、流行開始の目安となる定点当たり1.0人を上回り、流行期に入りました。例年、流行が始まると急激に患者が増加するため、注意が必要です。健康管理に注意し、ワクチン接種、手洗いや咳エチケットなど感染予防対策を徹底しましょう。症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

2. つつが虫病

1件の報告があり、今年の累計は3件となりました。例年、11～12月にかけて報告数が多くなっています。山や草むらに入るときは、長袖・長ズボンを着用するなど、肌の露出を少なくし、ダニ類の付着を防ぎましょう。屋外活動後は入浴し、ダニ類が付着していないか確認しましょう。

インフルエンザの流行状況



【参考】厚生労働省「インフルエンザ(総合ページ)」  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuzenza/](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuzenza/)

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィン	インフルエンザ	59	1.59	0.41		↑	小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.69		
小児科	咽頭結膜熱	7	0.29	0.29		↔	眼科	RSウイルス感染症	16	0.67	0.63		↔
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	1.83	2.42		↔		急性出血性結膜炎	1	0.13	-		
	感染性胃腸炎	88	3.67	8.97		↔	流行性角結膜炎	4	0.50	1.05			
	水痘	12	0.50	0.62			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	9	0.38	0.94		↔		無菌性髄膜炎	-	-	0.06		
	伝染性紅斑	5	0.21	0.17				マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.17		
	突発性発しん	8	0.33	0.33				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	5	0.21	0.10				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔	↔	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	つつが虫病	1	3	男性(50歳代)
4	レジオネラ症	2	28	男性(50歳代)、男性(70歳代)
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	7	男性(10歳未満)
5	梅毒	1	67	男性(50歳代)
5	百日咳	1	77	女性(10歳未満)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(40.0) 上気道炎 下気道炎 下痢 肝機能障害 腎不全 心不全 血尿 蛋白尿 乏尿 出血傾向 意識障害 ショック症状	8	男	2019/09/29	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型
インフルエンザ	発熱(38.0) 咽頭炎 鼻炎	8	男	2019/10/05	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型
感染性胃腸炎	下痢	1	男	2019/09/08	糞便	ノロウイルスGII
手足口病	発熱(39.3) 発疹 口内炎	3	男	2019/09/29	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA16型
その他の呼吸器疾患	上気道炎	2	男	2019/09/08	鼻汁	パラインフルエンザウイルス2型

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載